

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(10/04)

武田壽夫(文、写真)、山 國(写真)、山田(写真)

日 時：2018(平成 30)年 10 月 4 日(木) 9:30～15:30

気 象：天候=薄曇→少雨(気温：17℃)

活動エリア：44 林班い、45 林班ろ・04・に・03 ほか

活動内容：台風 21 号・24 号による倒木・落枝の整理と体験参加者への実習を兼ねたリエンテーション

参加者：(会員 8 名)石原順子、泉家恵子、斧田一陽、河野直子、武田壽夫、宮本 廣、茂木完治、山 國
(体験 4 名)内海宏一、寺島義尚、山田眞也、松浦達希(4 名) 計 12 名

<今度は台風 24 号が心配、一方!!朗報!!も>

21 号台風からの復旧に手を付け始めたと思ったら、9/30 夜には 24 号が田辺に上陸。全く「自然の営みに休み無し」である。幸い今度の爪跡は軽かったが、それでも前に傷んだ山には倒木・落枝の新しい傷みが点々、加えて本山寺には「入山禁止」の張り紙、と並べると如何にも今日も「前途多難」。しかし一方では孔子様の励まし通り「徳不孤 必有隣(*)」で入会希望の問い合わせあり。

聞けば、当会の活動を掲載してくれた大阪みどりのトラスト協会の会報『「みどりのトラスト」94 号の記事を見て』とのことで、トレイル・ランでこの辺りにも親しんでおられる模様。そのお三方には先ず「体験」して頂くことに。加えて卒論準備の一環にと見学にきた学生さんにも体験して貰う。学生さんは勿論、ランナー 3 氏は当日参加の会員より 20 才以上も若く、頼もしいこと限りなし。

*「徳不孤 必有隣」：徳 孤ならず、必ず隣あり(論語 里仁編 第四 二十五章)

<山は癒しを待っている>

山頂尾根に会員中 5 人、体験の 4 人+案内 3 人は「45 林班」の巡視に、と二組で出発。いずれも途次、道の障害除去に手を動かしながら進む。山頂に向った一組は前方を遮る倒木整理に息を切らせ、午後は体験組も山頂組に参加。新しい顔ぶれは若さだけでなく作業に新たな力をもたらしてくれる。体験の山田氏持参の(大型)会津鋸は玉切りに威力を発揮し、携帯レーキは落枝のこまめな整理に重宝する。

<今日の成果>

山頂ではモニタリング調査区へのルートが隣地の根起しも倒れ込み、それらの枝が重なって全く前進不能。足の踏み場は勿論、頭上には中折れが被さる。先行した山頂組の 5 人は午前の作業で疲労困憊の様子(調査区も谷側に高木が倒れ込むなど、現況視認不能)。

午前中 45 林班南部の里道・作業道を一巡した体験組は、活動地の説明を受け乍ら前回手つかずだった倒木を整理。この一帯は標高が低いからか、南からの暴風を受けなかったのか、幸い被害は少ない。午後は山頂組に合流し、倒木整理に当たる。

(閑話休題)これだけの猛台風は 50 年ぶりとのこと、倒木累々の山に立つ度に 50 年後はどんな樹林が育つのだろうと思ってしまう。なお、境内下のトイレは修復成っていたが、ポンポン山方面も酷い有様のように入山は禁止、ハイカーの姿なし。

(本文 以上)

① : 「体験組」も加わり賑やかなスタート



② 「ボンボン山倒木多数有り危険 遭難事故発生」



掲示「入山禁止」

③ : 自然歩道を塞ぐ新しい倒木



本山寺裏約 100m

④ : 手前2本は斜面を滑り落ちそうなので残置



⑤ : 上の枝もさらに切ってより通り易く(里道)



⑥ : 体験参加者に活動地を説明しながら



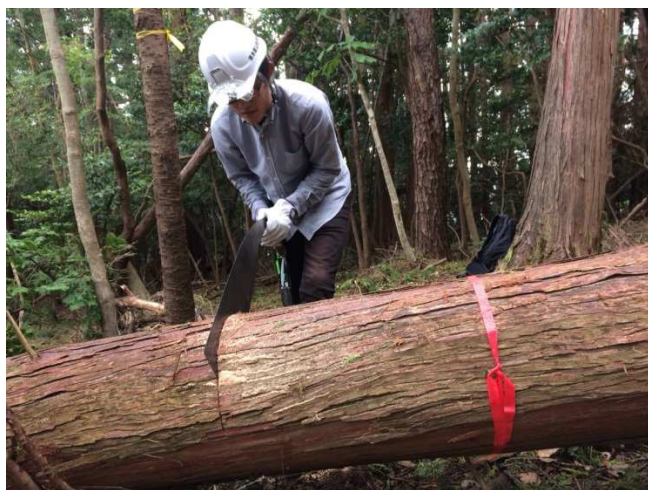
⑦：44 林班要図(山國作図)



⑧：携帯レーキで落枝を整理しながら谷に降る



⑨：会津鋸の活躍(44 林班内)



⑩：径 43cm の中径木も切り口はスッキリ



会津鋸：16C 初頭以来長く大工仕事や森林作業で活躍、今では鍛冶屋も激減、目立ても大変。

⑪：会津鋸-女性も”サクサク”



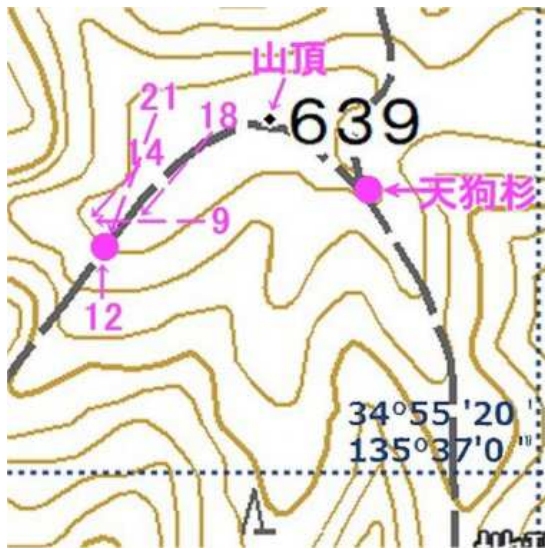
↑ 天狗杉手前

⑫：会津鋸-茂木会長も”サクサク”-疲れた?!!



↑ 天狗杉手前

⑬：山頂の活動場所要図(山國作図)



⑭：倒木累々の山頂尾根



⑮：何とか通れるように頑張る



⑯：モニタリング調査区の惨状



⑰：帰途も邪魔な倒木などを整理しながら



⑱：道標の修復・根元を補強し埋め戻す

